

上田市文化財調査報告書第98集

市内遺跡

平成15年度市内遺跡発掘調査報告書

2004. 3

上　　田　　市

上田市教育委員会

市内遺跡

平成15年度市内遺跡発掘調査報告書

2004. 3

上　　田　　市

上田市教育委員会

例　　言

- 1 本書は、長野県上田市における各種開発事業に伴う平成15年度市内遺跡発掘調査報告書である。
- 2 調査は、国庫補助事業として、上田市（上田市教育委員会事務局生涯学習課文化財係）が実施した。
- 3 現地調査は、生涯学習課文化財係尾見智志・中沢徳士が行った。
- 4 現地調査は、主としてバックホーによるトレンチ調査で行った。バックホーの賃貸借・運転については、和農興・竹内和好が行った。
- 5 本調査に係る資料は、上田市立信濃国分寺資料館に保管してある。
- 6 本調査にあたり、開発施工主・担当課に調査実施に係る調整等、格段の御協力をいただいた。

- 7 本調査に係る事務局の体制は、次のとおりである。

教育長	森大和
教育次長	内藤政則
生涯学習課長	宮下省二
文化財係長	小林浩
文化財係	中沢徳士・尾見智志・塩崎幸夫・久保田敦子

- 8 本調査に係る作業は次のとおり分担をした。

現地調査	尾見・中沢
整理作業	鹿島すみ江・藤中陽子
写真	尾見・中沢
本書執筆・編集	尾見

< 目 次 >

(1) 史跡信濃国分寺跡（物置建設）	1
(2) 染屋台条里水田跡遺跡（公民館建設）	3
(3) 国分遺跡群（共同住宅建設）	5
(4) 史跡信濃国分寺跡（共同住宅建設）	7
(5) 染屋台条里水田跡遺跡（道路改良事業）	9
(6) 城光寺遺跡（道路改良事業）	11
(7) 染屋台条里水田跡遺跡（道路改良事業、インターライ周辺整備事業）	13
染屋台条里水田跡遺跡における調査状況	15
平成 15 年度試掘調査地点位置図	17
写真図版	20
報告書抄録	24

(1) 史跡信濃国分寺跡

1 調査地	上田市大字国分
2 原因	物置建設
3 調査日	平成15年5月16日
4 調査方法	現状変更の場所(約9m ²)の半分の表土を剥ぐ
5 調査担当者	中沢徳士

遺跡の環境と経過

史跡信濃国分寺跡は、昭和5年(1930)11月に現在の僧寺講堂跡を中心とする部分(4,178m²)が文部省指定史跡となった。その後、昭和38年から昭和46年にかけて7次にわたる発掘調査を実施した。その結果、瓦・土器類などの多くの遺物が出土し僧寺跡・尼寺跡の伽藍の全貌がほぼ確認されるという多大な成果を収めることができた。これを機に、昭和43年3月には125,161.17m²が追加指定されたことにより、合計129,339.7m²が国指定史跡となり現在に至っている。

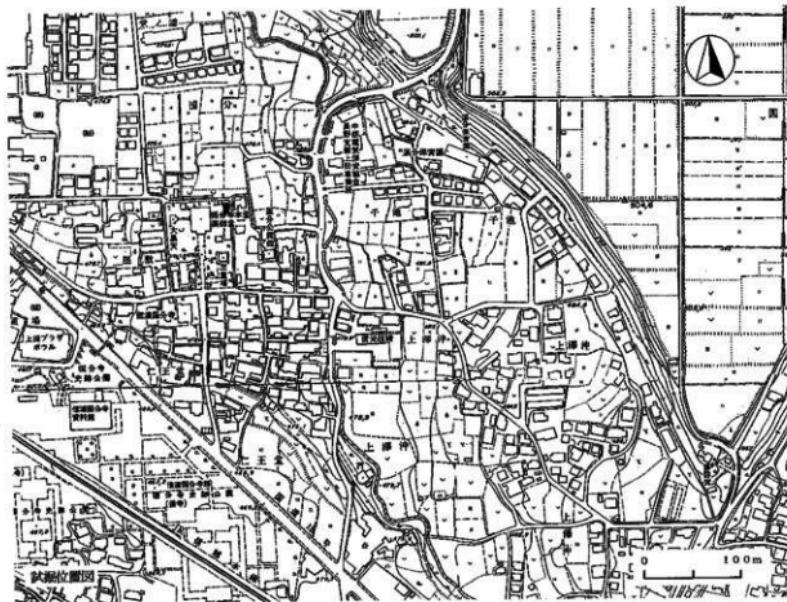
現国分寺は、信濃国分寺跡の北方段丘上に位置している。その創建は、古代信濃国分寺が廃絶されたと推定される平安時代中期からさほど降らない時期と考えられている。現国分寺に残る最古の遺構は、室町時代の様式を伝える三重塔(重文)である。また、室町時代の書写となる「牛頭天王祭文」(市指定)も遺されていることから、遅くとも室町時代には現在地に伽藍を構えていたものと考えられる。

現国分寺の本堂境内では、これまで現状変更申請に伴う工事立会を行ってきたが、遺構は確認されることとなかった。しかし、平成12年に境内休憩所の建設に伴う確認調査で掘立柱建物跡と思われる遺構の一部が確認された。このことにより、当該地点にも遺跡が存在することが証明された。

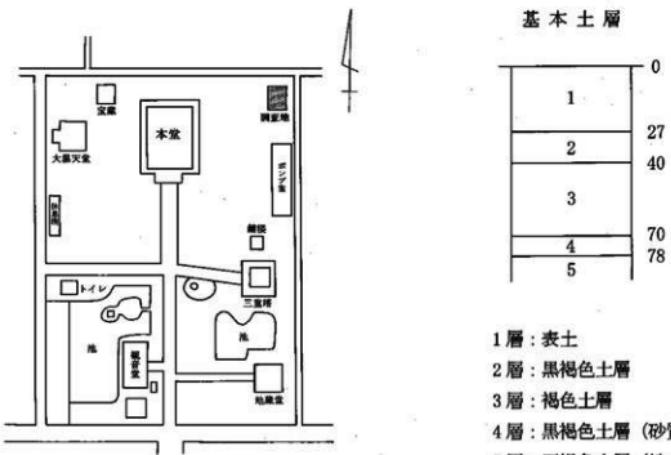
平成15年5月16日に物置建設に伴う史跡信濃国分寺跡現状変更申請に基づき遺構確認調査を行った。その結果、土坑1基と溝状遺構の一部が確認され、土師器・須恵器片が出土した。

調査の結果

建物敷に該当する場所の表土を剥がしたところ、地表面から約80cmの深さで土坑1基と溝状遺構の一部が確認された。これらは、第5層の灰褐色土層に掘り込まれた状態で確認されたが、信濃国分寺跡に関連するものであるかは判然としなかった。遺物は、土師器・須恵器・布目瓦の破片が出土している。確認された遺構は、物置建設による破壊が及ばないことから現状保存とした。



基本土層



- 1層：表土
- 2層：黒褐色土層
- 3層：褐色土層
- 4層：黒褐色土層（砂質）
- 5層：灰褐色土層（地山）

第1図 史跡信濃国分寺跡（物置建設）

(2) 染屋台条里水田跡遺跡

1 調査地	上田市大字住吉
2 原 因	公民館建設
3 調査日	平成15年6月10日
4 調査方法	幅約1mのトレンチを4本入れる
5 調査担当者	尾見智志

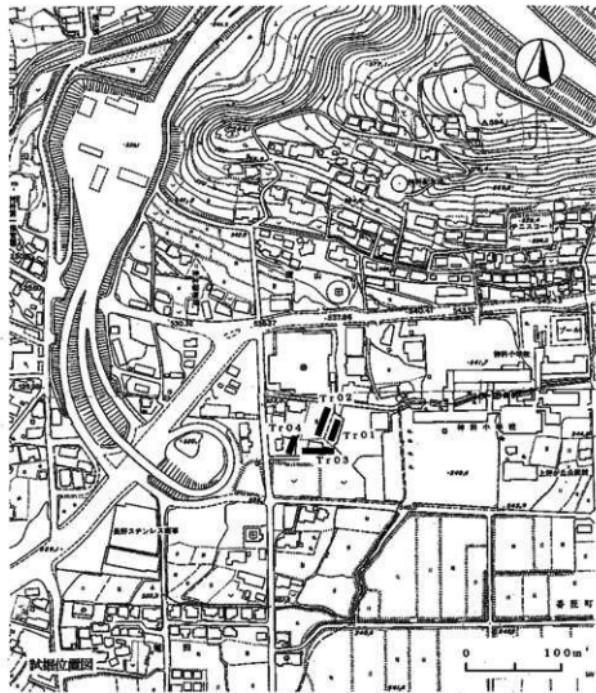
遺跡の環境と経過

染屋台条里水田跡遺跡は、上田市の北東部の千曲川と神川によって形成された河岸段丘上に位置する。上田市の遺跡分布図では台地全体が条里水田跡として括られており、条里水田跡以外の詳細な遺跡分布調査はなされていない。しかしながら、今までにも幾つもの遺跡が試掘調査によって確認されており、台地上の遺跡の状況も解明されつつある。隣接するインターチェンジ部分は長野県埋蔵文化財センターにより試掘が行われており、若干の土器小片が出土したのみで、遺構・遺物等は確認できていない。

平成13年10月12日に保護協議を行い、当該地区が遺跡の範囲に含まれることを伝えた。平成14年4月10日に再度の協議を行い、土地開発公社による土地取得をうけて平成15年6月10日に試掘調査を行った。遺構・遺物等は確認できなかった。

調査の結果

Tr01・02・03・04を設定して調査を行った。その結果、条里水田の痕跡及びその他の遺構・遺物等も確認できなかった。

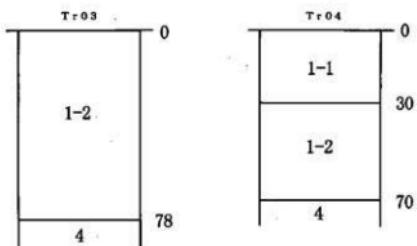


基本土層

	Tr 01(北側)	0
1-1		13
2		38
3		66
4		

	Tr 01(南側)	0
1-1		12
2		26
4		

	Tr 02	0
1-1		10
2		33
4		



1-1 層：表土

1-2 層：表土（埋立て土）

2 層：灰褐色土層（粘性が強い）

3 層：茶褐色土層（粘性が強い）

4 層：地山

第2図 染屋台条里水田跡遺跡（公民館建設）

(3) 国分遺跡群

1 調査地	上田市大字国分
2 原因	共同住宅建設
3 調査日	平成15年8月18日
4 調査方法	幅約1mのトレンチを3本入れる
5 調査担当者	尾見智志

遺跡の環境と経過

国分遺跡群は、現信濃国分寺が所在する河岸段丘上に位置する。これは、上沢沖遺跡・古城遺跡・堂浦遺跡・屋敷遺跡・堂面遺跡などの総称である。各遺跡からは、奈良・平安時代の土師器・須恵器片が出土しているとされている。

平成15年8月7日に開発事業局に係る現地調査を行い、当該地が国分遺跡群の範囲内であることを確認した。平成15年8月18日に試掘調査を行ったが、明確な遺構は確認できず、遺物も数点の土器片が確認できただけであった。

調査の結果

T r 0 1・0 2・0 3を設定して調査を行った。T r 0 1からは、数点の土師器・須恵器片が出土しており、黒褐色の落ち込みが確認されたため、トレンチを拡幅して形状を確認した。しかし、落ち込みは浅く、その形状は不明確で地形の起伏の跡と思われた。T r 0 2からは、遺構・遺物は確認されなかった。T r 0 3からは、焼土および「く」字状に組まれた石が確認された。トレンチを拡幅して調査を行ったが、他に遺構は確認されず、土器等の出土遺物も確認できなかった。なお、この石組のある場所は中庭および駐車場となる場所であり、破壊される恐れはない。



基本土層

Tr 01	0	Tr 02	0
1	10	1	12
2	30	2	27
3	42	3	52
4	60	5	
5			

1層：耕作土
2層：灰褐色土層（粘性が強い）
3層：茶褐色土層（粘性が強い）
4層：灰色土層（粘性が強い）
5層：黄茶褐色土層（地山）

第3図 国分遺跡群（共同住宅建設）

(4) 史跡信濃国分寺跡

1 調査地	上田市大字国分
2 原因	共同住宅建設
3 調査日	平成15年10月20・24・30日
4 調査方法	幅約3m・長さ約26mのトレンチを1本入れる
5 調査担当者	中沢徳士

遺跡の環境と経過

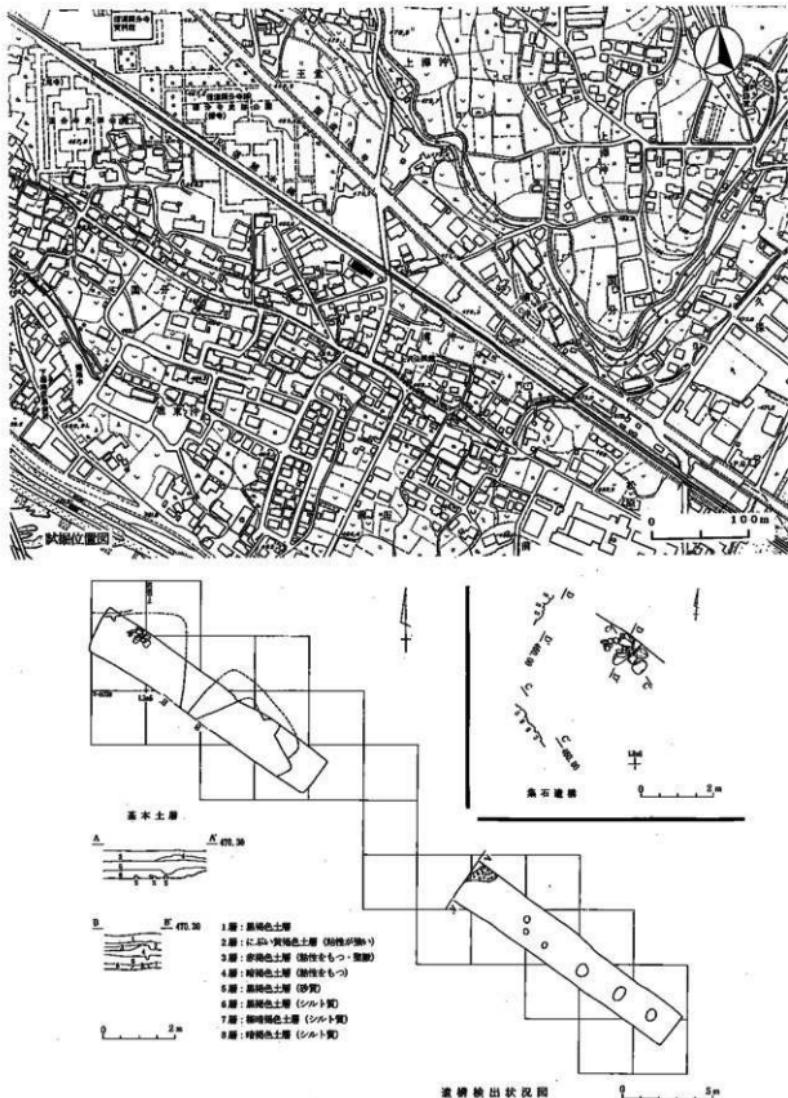
史跡信濃国分寺跡は、昭和5年（1930）11月に現在の僧寺講堂跡を中心とする部分（4,178m²）が文部省指定史跡となった。その後、昭和38年から昭和46年にかけて7次にわたる発掘調査を実施した。その結果、瓦・土器類などの多くの遺物が出土し僧寺跡・尼寺跡の伽藍の全貌がほぼ確認されるという多大な成果を収めることができた。これを機に、昭和43年3月には125,161.17m²が追加指定されたことにより、合計129,339.7m²が国指定史跡となり現在に至っている。

調査地は、僧寺跡の南東隅に位置し、僧寺の築地塀跡と想定されている付近である。僧寺築地塀の想定ラインについては、昭和41年3月の第2次調査にて追求しているが、僧寺南西隅に若干の版築遺構状のものが確認された以外は不明である。また、平成12年にも当該地北側の公園用地内でトレンチ調査を行ったが、築地塀等の遺構は確認されなかつた。一方、当該申請地については、昭和47年1月5日付でアパート建築の許可（委保第4の1115号）を受けて、上田市教育委員会による工事立会と試掘調査を行っている。しかし、遺構は確認されず、出土遺物も土器類・須恵器の破片が3点のみであった。

本件は、平成15年4月21日付で共同住宅建替による現状変更の申請があった。昭和47年当時の試掘調査結果を検討すると、その調査範囲が狭く、掘り下げも浅かつたことから、改めて遺構確認調査を行うこととした。調査は、平成15年10月20日から同年10月30日まで行った。

調査の結果

建物敷と駐車場に該当する用地の表土を剥ぎ取ると、古墳時代後期に所属すると思われる竪穴住居跡・所属時期が不明な土坑・竪穴住居跡を切るように集石遺構が確認された。遺構は地表面から約80cmの深さから確認された。竪穴住居跡および土坑は、信濃国分寺跡に伴うものではないと思われるが、集石遺構については栗石状を呈しており、礎石建物を想起させた。この栗石状の集石遺構に類似したものは、平成12年の公園用地内でトレンチ調査でも確認されており、築地塀の想定ラインに沿うように分布していることから、僧寺跡に係る遺構の可能性も考えられた。しかし、所属する時期を確認できず、信濃国分寺跡に結びつける論拠に乏しいことから、現状変更を不許可とする根拠とはなり得なかつた。また、建築物の基礎は盛り土をすることにより遺構面には達することはなく、地下遺構の保護に万全を期すことにより現状変更は認められた。



第4図 史跡信濃国分寺跡（共同住宅建設）

(5) 染屋台条里水田跡遺跡

1 調査地	上田市大字住吉
2 原 因	道路改良事業
3 調査日	平成15年10月24日・29日
4 調査方法	幅約1mのトレンチを4本入れる
5 調査担当者	尾見智志

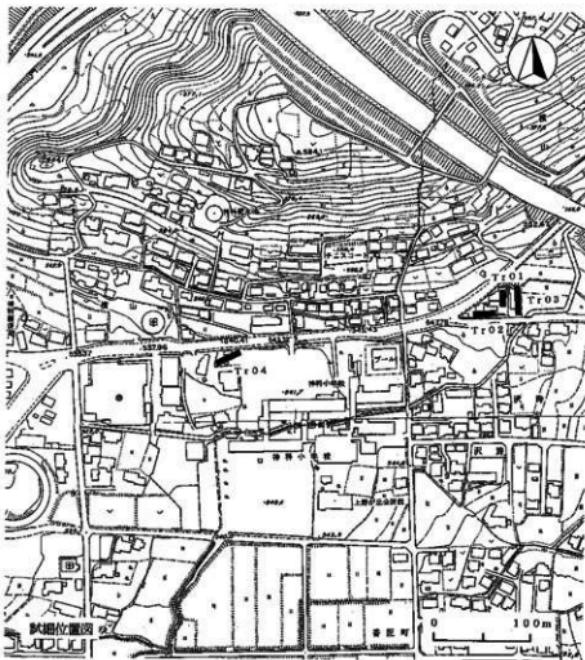
遺跡の環境と経過

染屋台条里水田跡遺跡は、上田市の北東部の千曲川と神川とによって形成された河岸段丘上に位置する。上田市の遺跡分布図では台地全体が条里水田跡として括られており、条里水田跡以外の詳細な遺跡分布調査はなされていない。しかしながら、今までにも幾つもの遺跡が試掘調査によって確認されており、台地上の遺跡の状況も解明されつつある。隣接するインターチェンジ部分は長野県埋蔵文化財センターにより試掘が行われており、若干の土器小片が出土したのみで、遺構・遺物等は確認できていない。

平成13年10月23日に公共事業に係る埋蔵文化財の保護協議を行い、準備が整い次第、試掘を行うこととした。交通量の多い国道沿いの調査地には、未買収の箇所があることから、重機の移動のため2日に分けて調査を行うこととした。平成15年10月24日・29日に試掘調査を行ったが、遺構・遺物等は確認できなかった。

調査の結果

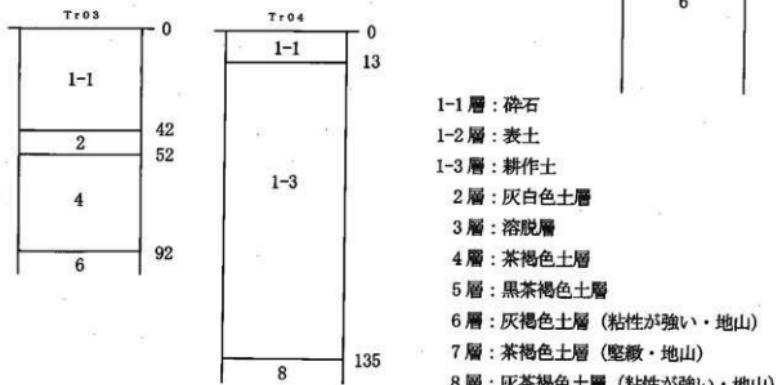
Tr 01・02・03・04を設定して調査を行った。いずれのトレンチからも、遺構・遺物は確認できなかった。



基本土層

	Tr 01	0
1-2	17	
2	30	
3	40	
4	72	
5	90	
7		

	Tr 02	0
1-1		
1-2	35	
1-3	39	
4	68	
6	86	



第5図 染屋台条里水田跡遺跡（道路改良事業）

(6) 城光寺遺跡

- | | |
|---------|-----------------|
| 1 調査地 | 上田市大字富士山 |
| 2 原因 | 道路改良事業 |
| 3 調査日 | 平成15年11月5日 |
| 4 調査方法 | 幅約1mのトレンチを3本入れる |
| 5 調査担当者 | 尾見智志 |

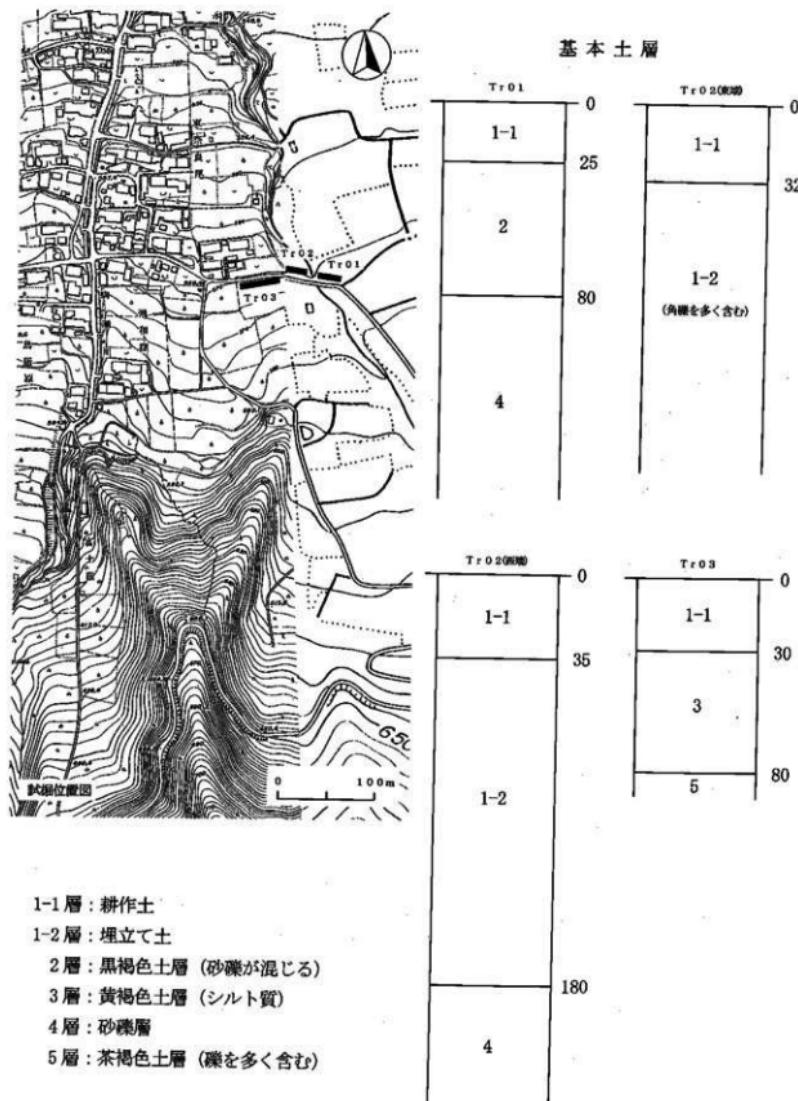
遺跡の環境と経過

城光寺遺跡は「上田市の原始・古代文化」によると「縄文期の石器、弥生後期の箱清水式土器・磨製石器が出土している。」としている。

平成14年10月12日に公共事業に係る埋蔵文化財の保護協議を行い、準備が整い次第、試掘を行うこととした。平成15年11月5日に試掘調査を行った。

調査の結果

T r 01・02・03を設定して調査を行った。水出川の両岸に設置したT r 01・02は河川による浸食を受けており、耕作土の下は角礫や砂の多い土層であった。特に、T r 02の西側は低地を埋め立てた痕跡があり地山まで約2mの深さがあった。T r 03は比較的高い場所に位置しており、耕作土の下はシルト質の茶褐色土層であった。どのトレンチからも、遺構・遺物は確認できなかった。



第6図 城光寺遺跡（道路改良事業）

(7) 染屋台条里水田跡遺跡

1 調査地	上田市大字住吉
2 原 因	道路改良事業、上田菅平インター周辺整備事業
3 調査日	平成16年3月15日
4 調査方法	幅約1mのトレンチを3本入れる
5 調査担当者	尾見智志

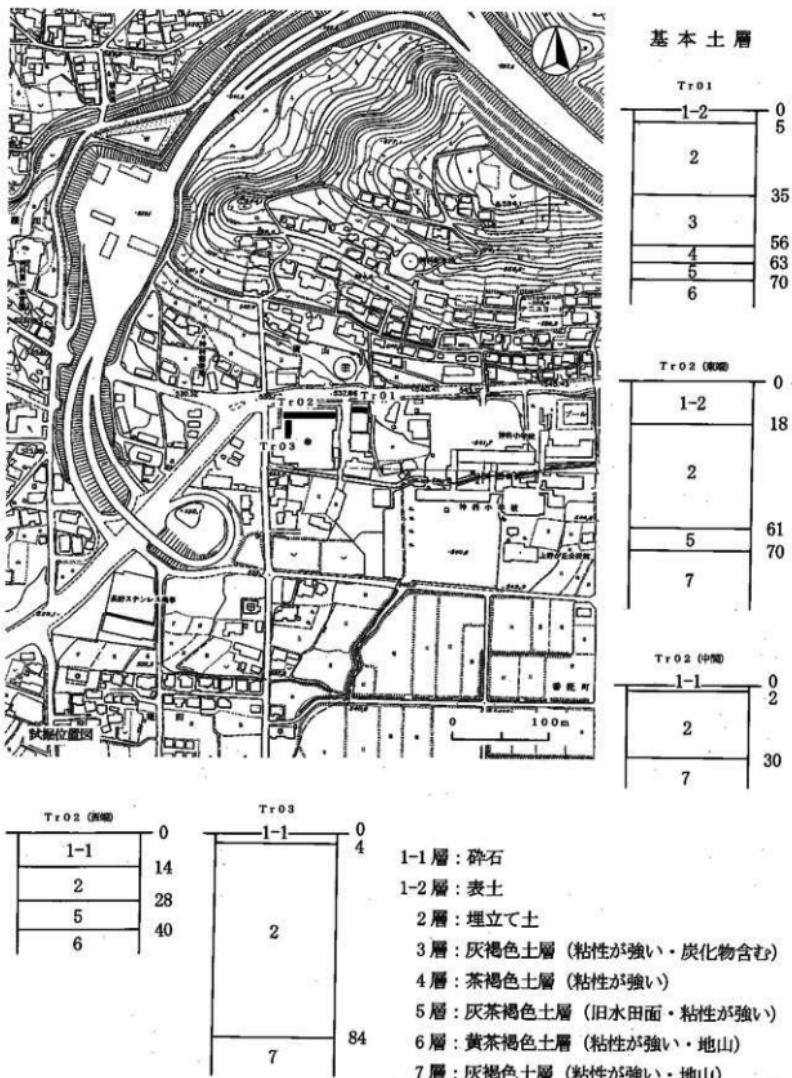
遺跡の環境と経過

染屋台条里水田跡遺跡は、上田市の北東部の千曲川と神川とによって形成された河岸段丘上に位置する。上田市の遺跡分布図では台地全体が条里水田跡として括られており、条里水田跡以外の詳細な遺跡分布調査はなされていない。しかしながら、今までにも幾つもの遺跡が試掘調査によって確認されており、台地上の遺跡の状況も解明されつつある。隣接するインターチェンジ部分は長野県埋蔵文化財センターにより試掘が行われており、若干の土器小片が出土したのみで、遺構・遺物等は確認できていない。

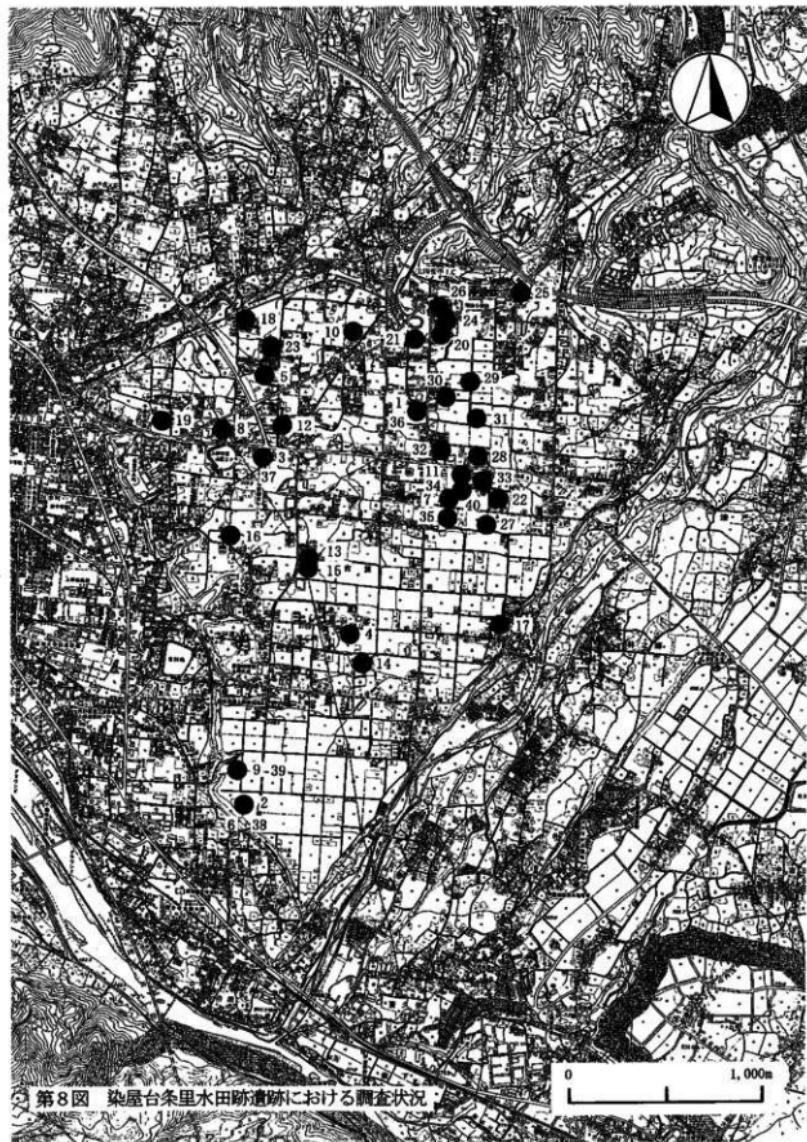
今回も、平成13年10月23日の公共事業に係る埋蔵文化財の保護協議に基づき平成16年3月15日に試掘調査を実施した。遺構・遺物は確認できなかった。

調査の結果

T r 0 1 ・ 0 2 ・ 0 3 を設定して調査を行った。いずれのトレンチも緩斜面の当該地区を平坦に造成した痕跡が地山まで達している部分が多く、以前は地山直上の面で宅地や水田が営まれていたことが確認できた。いずれのトレンチからも遺構・遺物は確認できなかった。



第7図 染屋台条里水田跡遺跡（道路改良事業、上田菅平インター周辺整備事業）



No.	年度	遺跡名	調査結果	備考
1	H4	柳町遺跡	なし	
2	H6	染屋台条里水田跡遺跡	遺構・遺物等確認	古城遺跡として調査
3	H7	染屋台条里水田跡遺跡 1	遺構・遺物等確認	大畠遺跡として調査
4	H7	染屋台条里水田跡遺跡 2	なし	
5	H7	染屋台条里水田跡遺跡 3	なし	
6	H7	染屋台条里水田跡遺跡 4	遺構・遺物等確認	古城遺跡として調査
7	H8	西之手遺跡	遺構・遺物等確認	西之手遺跡として調査
8	H8	染屋台条里水田跡遺跡	なし	
9	H8	上沖遺跡	遺構・遺物等確認	上沖遺跡として調査
10	H9	染屋台条里水田跡遺跡 I	なし	
11	H9	染屋台条里水田跡遺跡	遺構・遺物等確認	西之手遺跡
12	H9	染屋台条里水田跡遺跡 II	なし	
13	H11	染屋台条里水田跡遺跡	なし	
14	H12	染屋台条里水田跡遺跡(1)	なし	
15	H12	染屋台条里水田跡遺跡(2)	なし	
16	H12	染屋台条里水田跡遺跡(3)	なし	
17	H13	染屋台条里水田跡遺跡 1	なし	
18	H13	染屋台条里水田跡遺跡 2	なし	
19	H14	染屋台条里水田跡遺跡 1	なし	
20	H14	染屋台条里水田跡遺跡 2	なし	
21	H14	染屋台条里水田跡遺跡 3	なし	
22	H14	染屋台条里水田跡遺跡 4	なし	
23	H14	染屋台条里水田跡遺跡 5	なし	
24	H15	染屋台条里水田跡遺跡 1	なし	
25	H15	染屋台条里水田跡遺跡 2	なし	
26	H15	染屋台条里水田跡遺跡 3	なし	

以上、試掘調査

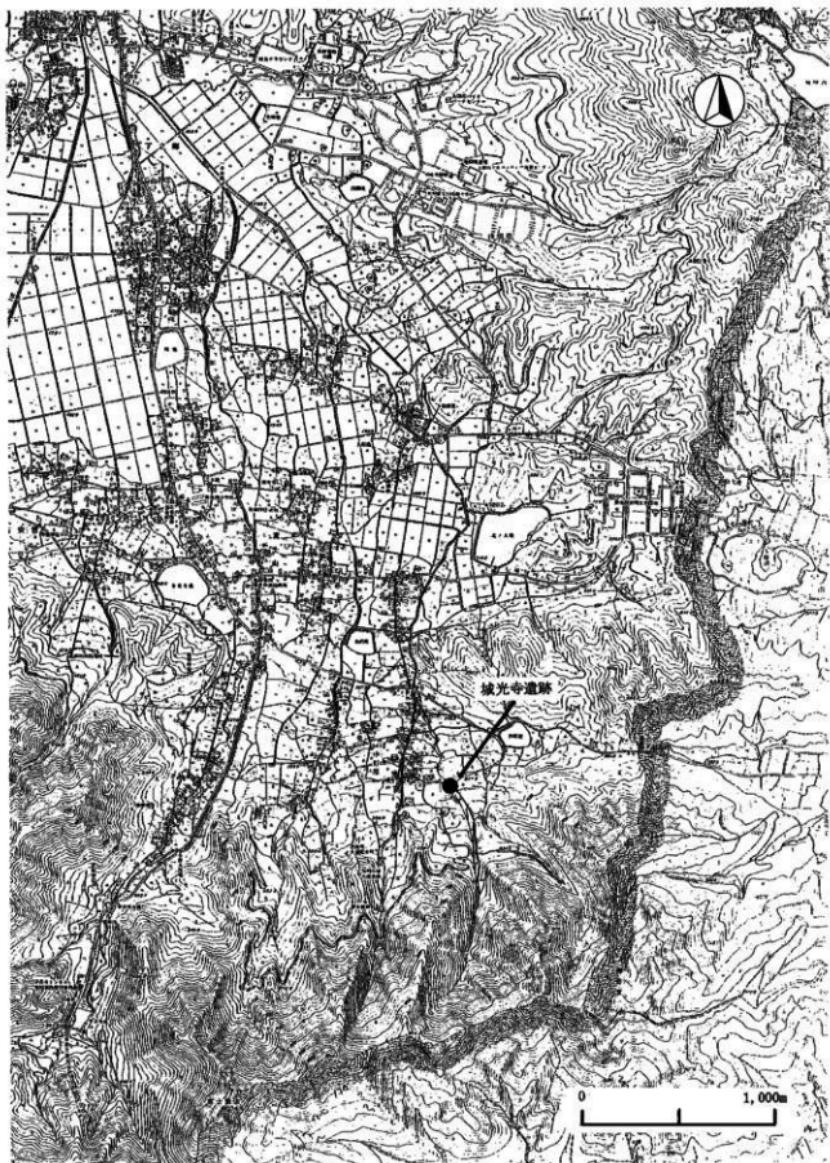
27	S58	創地の信濃国府跡推定地確認調査 I	古墳後期の遺構・遺物	
28	S59	創地の信濃国府跡推定地確認調査 II	西之手遺跡	
29	S60	創地の信濃国府跡推定地確認調査 III A地点	弥生・古墳前期と後期の土器片	
30	S60	創地の信濃国府跡推定地確認調査 III B地点	中世前期の陶磁器片	
31	S61	創地の信濃国府跡推定地確認調査 IV	なし	
32	S62	創地の信濃国府跡推定地確認調査 V B地点	なし	
33	S62	創地の信濃国府跡推定地確認調査 V D地点	古墳後期の遺物	
34	S62	創地の信濃国府跡推定地確認調査 V E地点	古墳後期の遺構・遺物	
35	S62	創地の信濃国府跡推定地確認調査 V G地点	なし	
36	H2	柳町遺跡	古墳後期の遺構・遺物	1と同じ遺跡
37	H8	大畠遺跡	中世前期の遺構・遺物	3と同じ遺跡
38	H9	古城遺跡	平安後期の遺構・遺物	2・6と同じ遺跡
39	H10	上沖遺跡	平安後期・中世の遺構・遺物	9と同じ遺跡
40	H11	西之手遺跡	古墳中期～後期の遺構・遺物	7・11と同じ遺跡

表1 染屋台条里水田跡遺跡における調査状況

(※ 図表は、調査報告書等により確認できる調査について記載した。また、参考にした報告書名の記載は省略した。)









史跡信濃国分寺（物置）



史跡信濃国分寺跡・遺跡（東上り）



染屋台条里水田跡遺跡（公民館）



国分遺跡群（共同住宅）



国分遺跡群・石組み



史跡信濃国分寺跡（共同住宅）



史跡信濃国分寺跡遺構（東より）



史跡信濃国分寺跡・集石遺構（北より）



史跡信濃国分寺跡遺構①（道路改良）



染屋台条里水田跡遺跡②（道路改良）



城光寺遺跡（道路改良）



染屋台条里水田跡遺跡（道路改良・インター周辺整備）

調査報告書抄録

ふりがな	しないいせき
書名	市内遺跡
副書名	平成15年度市内遺跡発掘調査
シリーズ名	上田市文化財調査報告書
シリーズ番号	第98集
編著者名	尾見智志
編集機関	上田市教育委員会
所在地	〒386-0025 長野県上田市天神二丁目4番74号 0268(23)5102
発行年月日	2004年3月25日

所収遺跡名	コード		試掘・事業 区域面積 (m ²)	調査原因
	市町村	遺跡番号		
史跡信濃国分寺跡	20203	12	9	境内物置建設
染屋台条里水田跡遺跡		52	11,000	公民館建設
国分遺跡群		54	1,254	共同住宅建設
史跡信濃国分寺跡		12	80	共同住宅建設
染屋台条里水田跡遺跡		52	2,000	道路改良事業（国道144号線）
城堀等遺跡		190	853	道路改良事業（奈良尾支線）
染屋台条里水田跡遺跡		52	5,000	道路改良事業（国道144号線）
				上田菅平インター周辺整備事業

* 遺跡番号の（ ）内は「上田市の原始・古代文化」（上田市教育委員会1977年）に記載された遺跡番号である。

上田市文化財報告書 第98集

市内遺跡

平成15年度市内遺跡発掘調査報告書

発行 平成16年3月25日
発行者 上田市
上田市教育委員会
印刷 田口印刷株式会社

